

熊本県手話サークルわかぎ 広報紙 復活第1号!

# わかぎ

★ 熊本県手話サークルわかぎ (略称: 県わかぎ) は、熊本・八代・玉名・人吉・天草・阿蘇・水俣・宇城・荒尾・鹿本・菊池 以上11グループの共同体です。

発行日:平成17年10月16日

発行責任:会長 村本 宗和

編集担当:広報部会

事務局:

〒862-0950 熊本市水前寺6丁目9-4

熊本県聴覚障害者総合福祉センター内

熊本県手話サークルわかぎ 前淵洋一

TEL 096-383-5587

FAX 096-384-5937

## 再生! 広報紙第一号の発刊に寄せて

会長挨拶 村本宗和



昭和四十三年、熊本県主催による県下初の「手話講習会」が開かれました。これは、翌年四十四年開催される「全国身障者スポーツ大会」のサポーター養成事業によるものです。(昭和四十五年度から厚生省による「手話奉仕員養成事業」が始まる。)

しかし、大会が終われば県は役割を果たしこれでオシマイ! これでは全て勿体ない! 四十四年も継続して頂くよう当時の県ろう協小畑理事長に働きかけたところ、自主事業として開催して頂く事となりました。昭和四十四年、スポーツ大会の模様を伝える新聞記事には手話通訳は「わかぎ」のメンバーが活躍したと写真付きで載っていた事を思い出します。こうして昭和四十四年、熊本県に最初の手話サークル「わかぎ」が誕生しました。昭和四十年代後期まで「わかぎ」は枯死寸前を二、三回繰り返しながらも、新芽が一本ずつ増えながら見事に育ち、「県わかぎ」の基盤が出来上がりまし

熊本県と市の二枚看板を背負っていた熊本市域を中心とした「わかぎ」を「熊本わかぎ」とし、玉名・八代・天草・球磨人吉の四地域わかぎを結成し、昭和五十二年六月、これらの連絡協議会として「県わかぎ」が結成されました。

その後は、比較的受講者が定着している所で、ろうあ者の在住者が多い県ろう協支部の順に地域わかぎを設立する方針に沿って順次「わかぎ」の和は増えてきました。地区は違いますが皆同じ、共に兄妹同様に頑張ろう! 又県内どこに行っても迷う事なく同じ「わかぎ」でもという事で名称も固定化しました。全国的に見てもユニークな形態ですね! 私は今時「熊本県ボランティア団体連絡協議会(昭和四十三年発足)」の事務局長の立場にあり、会長から、手話サークルの組織化を図り、一構成員としての資質を高めながら、社会資源の一つとして共に歩む仲間づくりの命を受けた特命オルグ員とも言えたでしょう。だから役割を引き受けない方針で、第三者的に関わっていたのでした。



県わかぎ理事会風景

ところが、昭和四十年代後期、松永朗氏の術策にかかり、知らぬ間に会長となっていたのです。木乃伊(ミイラ)取りがミイラ“になってしまいました。それからズットですから”シーラカンス“というニツクネームも頂いています。早く現場から離れて博物館入りをしては・・・! 状況を正しく捉え、適切な判断をするに値する情報の提供と共有及び共通理解をする事はとても大事なことです。この一端を担うのが広報紙ですので、編集方針や性格付けを明確にし、継続的な発行を目指しております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 沖縄大会レポート



去る9月3日、第54回全九州ろうあ者大会・第33回全九州手話通訳者研修会が、今年  
は沖縄で開催されました。本来3～4日の2日間開催の予定でしたが、残念ながら台風14  
号の影響により2日目は中止となりました。しかしはるばる沖縄まで遠征した参加者たち  
は、その甲斐の充分ある実り多い学びを持って帰られました。

各種分科会参加者の中から、宇城わかぎのお二人の方に以下詳しいご報告をいただき  
ました。（どうもありがとうございます!）

## レポ① 聴覚障害者問題に関わる研修分科会「教育」

9月3日（土）に、沖縄で開かれた第54回全九州ろうあ者大会・第33回全九州  
手話通訳者研修会の研修分科会（教育）に参加して参りました。

分科会では、「聴覚障害教育構想プロジェクト報告」と題して全日本ろうあ連盟教育対策  
部長の坂上譲二氏から講演がありました。この聴覚障害教育構想プロジェクトチームは3年  
前に立ち上げられ、最終報告書がまとめられたそうです。

### ○今までのろう教育

- ・ろう児のことをあまり考えていない。
- ・教育によって健聴者に近づける考えが強かった。
- ・音声言語（日本語）が優位で、ろう者が手話を使って生活する環境が整って  
いない。
- ・専門的知識を有した教師（ろう学校の免許を持った教師）が少ない。

### ○報告書の意義

- ・ろう児を中心に据えた教育システム作り。
- ・手話を中心とした教育システム  
（手話ができるだけでなく、手話で教える方法を研究していかなければ  
ならない。）
- ・専門知識を有した教師の配置（ろう者に対する知識や手話技術を持った教師）

### ○報告書の活用

- ・ろう学校へ配布する。
- ・教育委員会および行政への配布（手話による教育への理解）
- ・聴覚障害教育におけるバイブルとする。

講演内容に対していくつか質問がありました。

Q：インテグレーションでろう学校の児童・生徒の数は減少しているが、まず魅力ある  
ろう学校作りを進めてインテグレーションしないようにするか、プロジェクトを  
進めていくか、どちらが先なのか？

A：あるろう学校で、手話で授業を教えるように変えていったら子どもの数が増えた  
という話を聞いたことがある。子どもや保護者の期待に添う魅力ある学校を作れば、  
子どもの数は増えると思う。教育はサービスである。学校の先生たちには、子ども  
にいい教育を与えるというビジネス的な考え方を欲している。

\* \* \* \* \*

台風14号接近の影響で、分科会には午前中しか参加できませんでしたが、  
プロジェクト最終報告について詳しく知ることができ大変勉強になりました。

ろう教育にこれから携わる私自身にとって耳の痛い内容が多かったですが、  
まずは現場にいる私たちから意識改革をしていかなければならないと感じました。  
手話はろう者にとってかけがえのないものであり、言語であることを再確認  
しながら、報告書の内容を基に関係者の方々と話し合いを進めていかなければ  
ならないと思いました。

（宇城わかぎ 田中真紀子）

## レポ② 聴覚障害者問題に関わる研修分科会「青年」

青年研修会は、講師に長崎県ろうあ福祉協会会員の山崎榮子さんをお迎えし、「戦後60年を振り返って」というテーマのもとに講演をしていただきました。以下は講演の内容をまとめたものです。

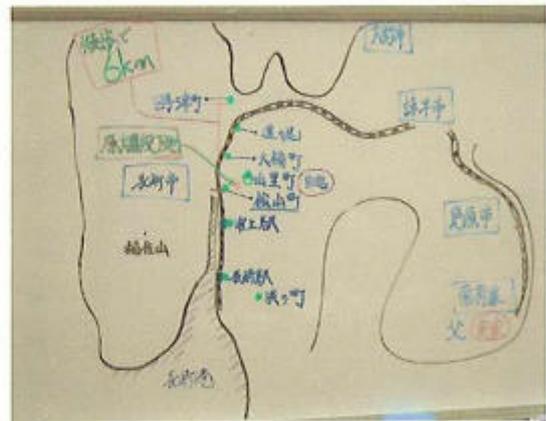
山崎さんは5人兄弟の末っ子。昭和15年頃、旗を持ったり万歳している人たちを見るようになった。ちょうどその頃から飛行機や、兵隊さんもたくさん見るようになったので戦争が始まったのだと思った。

中学卒業を迎える頃(昭和20年?)、次第に空襲が激しくなりたくさんの方が病院に運ばれ、また亡くなった。B29が長崎へ落ちたと父から聞かされた山崎さんは、両親と3人で自宅から6km離れた時津町というところに疎開することに決めた。

昭和20年8月9日18歳の時、疎開先の時津町で家を作るために両親と作業していた。休んでいた時に、自宅がある山里町の方向の山の上にオレンジの光がピカッと光ったかと思うと、突然突き上げられるような振動があり、何が起きたのかも分からずただ驚くばかり・・・。



(↑ 講師の山崎榮子氏)



(↑ 長崎市原爆投下の周辺地図)

その日の夕方、両親と一緒にお姉さんが待つ自宅に帰ることにした山崎さんは、帰る途中、悲惨な状況を目にする。体に火傷を負い顔や手などの皮膚が垂れ下がった人、体や顔がぼんぼんに腫れあがった人、内臓が飛び出ている人、黒焦げの死体、水が飲みたいたいのだろうか——皮膚が焼け爛れて腕を伸ばすことすら出来ない人・・・そんな中を路面電車の線路をつたい歩いていった。

自宅近くの松山町まで来ると、さっきまでの光景がウソのようなきれいな状態だったが実はそこが爆心地だった。(山崎さんは長崎市に戻り被爆した・・・入市被爆)お母さんが泣いているのを見てお姉さんの死が分かり、お母さんの背中に覆い被さって一緒に泣いたそうです。

そのような光景の中で、山崎さんはその原因が激しい空襲だったという程度の認識しかなく、後に原子爆弾だったということを知ったのは被爆から1年後、友人と出かけた先で偶然見た写真だったと言います。天皇が終戦を宣告した玉音放送も、周りの人からはなかなか内容を教えてもらえず、ようやく原爆の恐ろしさを知ったのは30年後のことだったそうです(ご主人から)。

山崎さんは2003年8月9日、長崎で開かれた平和記念式典で、手話で平和宣言をされました。被爆者代表では初めてのろうあ者だったそうです。山崎さんは今も体験を語り続けていらっしゃいます。聞こえない被爆者の代表として、そして平和な世の中になって欲しいとの願いを込めて・・・。

(宇城わかぎ 中山由香子)

レポ③ 全九州手話通訳者研修会 第2講座「手話サークル」



第三十三回全九州手話通訳者研修会（沖縄研修）にて、九手連担当の第二講座の午後のパネルディスカッションに、各県手連の活動紹介として、大分、鹿児島、それに熊本の事例発表があり、私の方で「県わかぎの活動紹介」を、パワーポイントを駆使して行ってきました。

発表資料を作成する中で、県わかぎの歴史を改めて知るとともに、他県と比べて、現在の県わかぎの活動が停滞し、決して誇れる状況にないことを痛感いたしました。今後、皆様と共に活性化を押し進めていきましょう。

まだ県手連が発足していない沖縄に対して、県手連の意義、重要性を十分説明出来たかも不明です。台風接近のため、分科会が質疑応答もないまま途中で終わり、所期の目的を達成できなかったことは残念でした。

（県わかぎ副会長 森保夫）

「障害者自立支援法案」に対し、共に取り組みを！

「どこが問題で、我々は何をすべきか 共に研究を」



去る九月十一日（日）の午  
後、「障害者自立支援法案」に  
ついての学習会が聴障センタ  
で行われました。これは、県わ  
かぎからの学習会開催要望に、  
県ろう協の松永常務理事が呼  
応して下さって実現したもので  
した。  
（実はこの日は、先の参議院  
での「郵政民営化」否決に伴  
う、衆議院解散総選挙の投票日  
でもありました。）  
当日、会場の聴障センター2  
F研修室は満員御礼！松永氏自  
ら講師を務めて下さり、パワ  
ーポイントを使った手作り資料は  
とてもわかりやすく、また、ブ  
ロジェクターに映し出された内  
容をしっかりとメモできるくらい  
のスピードで、一つ一つ確認し  
ながらじっくりと進めて下さい  
ました。  
また、熊通研の梶原会長も、  
今回の学習会の重要なポイント  
となる資料を提供して下さい、  
この日、松永氏のサブ的な立場  
で共にご指導くださいました。  
お二方に感謝です！

当日の学習会で、社会福祉の  
「基礎構造改革」の背景と流  
れ、「三位一体改革」の内容が  
よくわかりました。  
その後、この学習会を皮切りに、  
各地域の支部・サークル等  
でも本格的な学習会がスタート  
し、いよいよ熊本県をはじめ県内  
市町村並びに県議会及び各市町  
村議会に対する具体的な働きか  
けも今まさに始まるうとしてい  
ます。  
「今、皆が団結して取り組む  
時です！」と、集う毎に松永氏  
が力強く呼びかけておられま  
す。  
そうです。ピンチはチャンス  
でもあります。可能性を信じて  
勇気と力を合わせましょう！そ  
のためにも、お互いを理解し合  
い、信頼し合い、確かな連帯を  
築きましょう。そうして、全て  
の人が、当たり前前に安心して生  
活できる真に豊かな社会を皆で  
築きましょう！

各地わがき便り①  
〔菊池わかぎの巻〕

恵楓園へ行ってきました

国立療養所 菊池恵楓園で自治会長さんのお話を聞き、園内を見学する学習会を、五月二十二日（日）菊阿支部の皆さん、菊池わかぎ、阿蘇わかぎ、手話奉仕員養成講座の受講生も交えて総勢六〇名で行いました。

恵楓園は、明治四十二年四月一日に九州七県による連立「第五区九州らい療養所」として開設、昭和十六年七月に、運営が国に移され、現在の名前に改称されました。平成十七年五月現在の入所者は五二〇名。

講演会の会場は恵楓園内の「やすらぎ総合会館」で自治会長さんの講演です。会長さんは大分県出身で、十二歳の時発病し、親元を離れて入所されました。講演は約一時間、その後施設内を見学しました。



熱心に講演を聞く参加者達

先ず納骨堂に。一二〇〇有  
余の遺骨が整然と並んでい  
て、名前が二つある人もいま  
す。遺族からの引き取りがな  
いので・・・こんなに沢山  
の方の遺骨がここにあるので  
す。無名の遺骨もあります。  
これは、歳月により名前の判  
別が出来なくなったもののだそ  
うです。今年になって二〇名  
（五月二十二日現在）の方が  
旅立たれたがふるさとへ帰れ  
ない新しい遺骨がありました。



参加者総勢60名！

恵楓園分校（小・中学校）  
跡地は、緑豊かな広い公園に  
なっています。  
印象的な響きをもつ「あつ  
い壁」 菊池電車の音を聞  
き、ふるさとや家族を思い厚  
い壁に穴を開けた。それは  
思ったより高い所でありまし  
た。この部分はその後、資料  
室に移動されました。私た  
ちが見学した時は保存されるた  
めの準備が進められていまし  
た。  
そのままの状態では保存され  
ている「監禁場所」の一部  
分・・・言葉に出来ません。  
恵楓園は静かな雰囲気で、  
きれいに整備された園内は、  
私たちを暖かく迎えてくれま  
した。

当日は曇り空で五月にして  
は肌寒い天候でしたが、参加  
者全員有意義な一日でした。  
昼食は、交流棟をお借りして  
弁当をいただき、解散しまし  
た。

その後、六月三十日（木）  
の午後一時半から三時まで、  
「短歌の会」の方々と交流会  
をもちました。支部の方七  
名、サークルから七名で楽し  
いひと時でした。九十二歳で  
お元気な方も参加され、笑顔  
で話されるお一人お一人の話  
に心を打たれました。  
後日、参加者全員で、感想を  
一言ずつ書いて送りました。

八月九日（火）、恵楓園の  
盆踊り大会に参加。潮谷知事  
も参加されていました。入所  
者の方とは会えませんでした  
が、サークル会員や支部の方  
も参加して楽しいひと時でし  
た。これからも続けていきたく  
い活動です。

（菊池わかぎ 船方郁子）



## 事務局より

### 《これからの予定》

- ・10/29～30：全国ボランティア・フェスティバル火の国くまもと
- ・11/12：聴団連会議
- ・11/13：ろう教育を考える全国討論集会スタッフ研修会
- ・11/19：聴団連会議
- ・12/10：聴団連会議
- ・12/11：県わかぎ理事会
- ・1/29：県わかぎ研修会
- ・2/12：県わかぎ理事会
- ・2/19：ボランティアリーダー育成研修会
- ・3/5：耳の日ふれあい'06

### 《PRです》

☆九手連（九州手話サークル連絡協議会）のホームページも見てね！  
URL

<http://www.kyusyuren.org/>



## 県わかぎ理事会内に 《専門部会》ができました！

- ★交流部会：熊本・人吉・水俣
- ★研修部会：八代・玉名・荒尾・菊池
- ★広報部会：天草・宇城・鹿本・阿蘇

理事が各部に分かれ、会員の皆様に

“より良い交流  
より良い研修！  
より良い情報！”

を提供できるよう力を合わせてがんばります！ではさっそく・・・



### ★交流部会より

来年度の県わかぎ定期総会並びに交流会は人吉開催に決定しました！

### ★研修部会より

来年1月29日、県わかぎ研修会を開催します！

テーマ：「ろう教育の今を知る」  
講師：熊本県聴覚障害者情報提供施設  
小野 康二 氏

\*詳細は追ってお知らせします。  
どうぞお楽しみに！

### ★広報部会より

おかげさまで広報「わかぎ」第1号が無事完成しました！次回の発行は18年2月の予定です。たくさんの投稿・記事リクエスト等々お待ちしております！

## おめでとう！

- ♪八代わかぎ創立30周年！
- ♪県中央支部（旧八代支部）創立40周年！
- ♪玉名わかぎ創立30周年！
- ♪荒尾わかぎ創立20周年！

..それぞれ11月頃に記念事業を予定されています。益々のご発展をお祈りします。

## 編集後記

●県わかぎ便り復刻第一号は「広報専門部」を設置し、今年度から「広報」の運びとなり、その初、四ページの程度を想定し、内容ある多数の原稿をお寄せいただき、六ページに亘る創刊号を発売できましたことに対し、会員の相互の情の共有と、県わかぎの活性化に繋がれば幸いです。

●福岡西方沖地震、台風十四号被害、また海外でもアメリカのハリケーン・カトリナ被害やパキスタン地震など、各地の災害のニュースに心を痛める昨今です。県わかぎとしても、早急に「非常時対策マニュアル」なるものを策定する必要があり、皆様の協力をよろしく願います。

●通勤の途中にコスモスやスキの穂を見かけ、秋の風情を感じ、各サークルの行事も多いうです。皆さんからのご報告、お待ちしております。

●今後共、わかぎ広報部を宜しくお願い致します。(森)